

実務執行総括責任者が主導的な役割を果たすことによる、事業者が利用する情報処理システムにおける課題の把握


内容

実務執行総括責任者の主導のもと、DX推進委員会および全社員からDX化に関する業務改善の要望を収集し、業務プロセス上の課題、DXリテラシーなどの課題を把握した。これに基づき、デジタル技術者の採用や業務改善の優先順位付けを行う。主な課題は以下のとおりである。

1 業務プロセスの課題

- 重複作業の存在
- 承認フローの複雑化
- データ入力作業の属人化


など業務効率化を阻害する要因が確認された



2 人材に関する課題

- DXリテラシーのばらつき
- データ分析スキルの不足
- デジタル技術者の不足


が明らかになった



3 システムに関する課題

- 複数システム間の連携不足
- データの一元管理が困難
- 分析基盤の未整備

などが課題とされた



これらの課題を踏まえ、DX推進に必要な改善項目を示した。

プロセスの
標準化

システム連携の
強化

データ分析
基盤の整備

デジタル技術者の
採用・育成など

また、課題把握の結果はDX推進委員会で共有し、経営層へ報告することで、戦略の見直しや改善施策の優先順位決定に活用している。